

共生社会ホストタウン追加登録団体の活動計画（2019.11.1修正）

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
仙台市 (宮城県)	イタリア	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長遣欧使節の派遣以来続くイタリアとの長年の友好の歴史を基に、イタリアのパラ複数種目の事前合宿を受け入れ、学校訪問・競技体験会、パラスポーツに取り組む子供たちを対象とする交流・指導等を行い、障害者スポーツ、多様性理解の活性化等を目指す。 ・バリアフリー化に関する独自の基準の整備及び基準に沿った施設改修（市有施設で、260の建築物、135の学校等において段差解消や車いすトイレの設置等の改修のほか、民間の公益的施設において、設計段階及び工事完了後において、基準への適合状況を検査・指導）を実施。また、単独乗降可能な市営地下鉄の整備等を実施。さらに、ホテルの客室バリアフリー化の推進のための条例に基づく整備基準の改正やUDタクシー導入補助金制度の新設などを進める。 ・障害者差別解消条例（2016年度施行）に基づき、パンフレット・事例集の作成や表現活動による障害者差別解消・障害理解の促進に関するPR事業等を実施。また、障害者スポーツの理解・普及促進に向け、障害者スポーツに関する講演会やパラリンピック競技体験会等、パラスポーツ普及のためのイベントを実施するとともに、各種障害者スポーツ大会の誘致を図る。
成田市 (千葉県)	アイルランド	<ul style="list-style-type: none"> ・アイルランドのパラリンピックチームの事前合宿を受け入れるとともに、日本人オリンピック・パラリンピアンを含め、学校での交流やスポーツ教室、パラスポーツ体験会、講演会、パラ大会応援等の交流を行い、心のバリアフリーを推進し、共生社会実現に向けた取組みをすすめる。 ・アイルランドパラリンピックチームのアドバイスを取り入れ、陸上競技場やプールの管理棟などのバリアフリー化を実施。アイルランドパラリンピックチームの事前キャンプの受け入れを契機に、本市を訪れる障害者や高齢者が安全で快適に過ごせるよう、宿泊施設のバリアフリー化促進に向けて、改修費補助制度を創設。 ・地域関係機関と連携した「NARITAスポーツツーリズムフェス」の中で、パラスポーツ体験会や障害体験プログラムを実施することにより、パラスポーツの普及と心のバリアフリー啓発を促進。「障がい者立位テニス世界大会」等の障害者スポーツ大会を誘致する。2020年東京オリンピック・パラリンピック関連ボランティアである都市ボランティアを含むボランティア（約500人）について、心のバリアフリーの研修を含め育成し、2020年以降におけるパラスポーツの事前キャンプや各種パラスポーツ大会等スポーツツーリズム関連事業へ活用していく。
浦安市 (千葉県)	英国 (車いすバスケットボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットボール英国代表の事前キャンプ受入を通じ、小中学生の車いすバスケットボール体験等により多くの市民との交流を積極的に実施するとともに、英国代表と日本代表の公開練習試合の開催や、パラアスリートを招いた講演会や体験会などのイベントを実施し、市民の障害理解等を促進する。 ・聴覚に障害のある方の聞こえをサポートするため、公共施設を中心にヒアリング（磁気）ループシステムの整備を進める。さらに、浦安市運動公園のバリアフリー化に向けて、運動公園内の多機能トイレの増設や園路を継続的に整備する。 ・障害者差別解消条例（2016年度制定）や手話言語条例（2018年度制定）を制定するとともに、学校教育冊子や市民・事業者向けのリーフレットの配布、小学校で白杖・車いす乗車体験等を実施し、障害理解や手話の普及を推進する。また、今年度より本市で開催されている全国車いすバスケットボール大学選手権大会を今後も継続して受入れ、観戦や体験などを通じ市民が車いすバスケットボールに触れる機会を創出する。
伊勢市 (三重県)	ラオス (パラ陸上)	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年7月末にラオスのパラ陸上の事前合宿を受け入れることをきっかけに、NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアースセンターと連携し、来訪する選手と市内要所を歩きつつ、バリアフリーマップの充実など、バリアフリー観光事業へのフィードバックを行うとともに、地元の陸上クラブの子ども達などとの交流を行う。 ・民間団体と協働で実施している「伊勢おもてなしヘルパー（歩行困難者や車椅子ユーザーの伊勢神宮参拝を助けるボランティア）」について、視覚・聴覚障害者等へ対象を拡大し、活動エリアや対応時間帯等も広げて対応できるよう取組を進めていく。 ・「誰もが自分らしく暮らせる自立と共生のまちいせ」の実現を目指し、平成28年から「障がい者サポーター」（様々な障害の特性や必要とする配慮を理解し、日常生活の支援を実践する人）制度に取り組み、サポーター登録数は1千人を超えており、平成30年からは小学校高学年を対象にキッズサポーター事業も開始。また、県内で初めてコミュニケーション支援アプリ「UDトーク」を搭載したタブレット端末を市役所の窓口を設置したほか、市内コンビニ全店に指さし会話版の「コミュニケーション支援ボード」を設置。さらには、障害のある人と共に働くことへのイメージづくりと障害者への理解促進を図るため、就労体験サポート事業を実施するなど、共生社会の実現に向けた各種取組を実施しており、今後更に障害への理解促進を加速させていく。

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
北九州市 (福岡県)	英国 (車いすラグビー) ・ ドイツ (車いすバスケットボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・英国・ドイツ車いすラグビー代表チームとの交流を通じて、共生社会を市民に意識づける契機とするとともに、キャンプの実施を通じて、代表チームに本市のバリアフリーを体験してもらい、今後の改善や事業推進に資する。 ・駅・道路等の市民による「バリアフリー点検」や、駅のエレベーターやスロープの設置、嵩上げによる車両との段差解消等障害者が利用しやすい公共交通機関の整備に取り組んでいる。さらに、市公共施設の新築・改築等における障害者団体等との意見交換手順のルール化や、障害者参画の下での主要経路のバリアフリー化、障害者や国際化にも対応したピクトグラムの活用を進める。 ・平成15年から毎年、日本を含めた4か国による国際車いすバスケットボール大会を開催しており、同時開催として全国ブロック別大会及び市内小学生による大会を実施。大会中、障害者スポーツの体験コーナーなどPRも実施。北九州市発祥の「ふうせんバレーボール」や副読本を通じて、市内小中学生の障害に対する理解と支えあいの精神を涵養。今後、パラリンピアンによる小中学校等での交流も実施。北九州市障害者芸術祭やシンポジウム等の開催による市民意識の醸成と啓発事業を実施しており、今後も「福岡県障がい者スポーツの祭典(仮称)」などを計画。
築上町 (福岡県)	フィジー、パプアニューギニア、バヌアツ、ソロモン諸島、サモア、トンガ、キリバス (パラ陸上)	<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア諸国のパラリンピアン・コーチを招いての学校交流(小中学校、特別支援学校等)や一般公開練習、壮行会や大会結果報告会等での交流を通じて、町民の心のバリアフリー意識の啓発、パラスポーツの普及推進を図る。 ・体育館や観光施設へ車いす対応駐車スペースを整備。また、本庁舎の建替えにあたり、エレベーターの設置、多目的トイレ、段差のない通路設置など、バリアフリー化を進める。また、「築上町観光マップ」を改訂し、観光施設のバリアフリー状況の情報発信を行う。 ・障害のある子供向けに日ごろ体験することのないマリンスポーツ(カヌー)体験を実施する。また、町内中学生を対象とした車いすバスケットボール体験教室、日本人パラリンピアンによる講演会や児童との交流会、町民及び役場職員を対象とする心のバリアフリー教室、ボッチャ体験会、障害者と健常者のスポーツ交流大会等により、パラスポーツの普及と町民の心のバリアフリーを促進する。